

森林の恵み 100%を召しあがれ。

やま
ここには森林を使いながら
守ってきた歴史があります。

THE GUNMA VISION

"The GUNMA Citizens" Network Of Thinking For Forest

Since 2003

はじめに

「群馬の森をなんとかしたい。」

このリーフレット(小冊子)づくりは「群馬の森をなんとかしたい」という人々が集まった、「第8回森林と市民を結ぶ全国の集い・ぐんま 2002」を起源にしています。

森は多様な生物の暮らす場所であって、人間にとっても生物にとっても欠かすことのできない環境装置です。また循環型社会をつくるうえでの重要な基盤でもあります。でも現実には、現在の森がどのような状態になっているのかさえ、すべての森を明確にはつかみきれてなくて、まして、その森にどのような動植物が生息しているのか、森で年間どのくらいの雨が降り、それが河川流量とどのような関係をつくっているのかなど、わかっていないことが大部分です。

「森林」の価値を正當に評価して、その評価にもとづいて、人々が多様に森林と関わる群馬県をつくる。そのためには、基礎的資料として、詳細な「群馬の森林地図」をつくる必要があると私たちは考えました。森林についての総合的な調査の実施と、「森林地図」の策定という大きなミッションです。

そしてその基準作りを、まず特定のエリアを定め、モデルを創ろうと考えたとき、群馬の北部に目がいきましました。それは水源圏の誇りとして、そして人里から裏山、奥山、山岳、渓谷...など、多様な環境がコンパクトなユニットになっていたからです。

ところで、森に関心をもつ市民と行政は協力して、このような活動を可能にする態勢づくりに着手するとともに、統一的な「調査マニュアル」づくりが、早急に進められる必要があると私たちは考えていました。

ところがそれはもう始まっていました…。

それは地域々々のボランティア活動であったり、環境保全や森林作業ボランティアのNPOであったり、あるいは学校や研究機関の調査活動など、枚挙にいとまがありません。

中には、この森林を利活用するアウトドアレクリエーショングループも、環境保全活動を業務としておこなっていたり、地域住民が「古い生活道」を復元して、訪れる人々を案内したりしています。

そこには必然的に、森に手を入れるという作業が芽生え始めていました。温故知新のスタイルで…。

第8回森林と市民を結ぶ全国の集い・ぐんま 2002

地域における森づくりのあり方を考えることを目的に森林ボランティア、環境問題に取り組む企業、林業関係者など自主的に森づくりに取り組む人たちの全国集会在平成14年9月14日から16日に本県で開催されました。

シンポジウムなどでは、県民の手でまとめられた「森林と人の未来のための群馬ビジョン」(起草2002/09/16)について熱心な意見交換が行われました。

目 次

- その一 あなたは本当の木漏れ日を見たことがありますか？
- その二 水源圏から「歩く文化」を伝えたい。
- その三 流れ出した「水」には名前がついていません。
- その四 森林には持ち主がいます。境界があります。
- その五 「観光」から「環境」へ バージョンアップしませんか。
- その六 みんなで創り、歩き、森を守りませんか。



あなたは

本当の^{こも}木漏れ日

見たことがありますか？

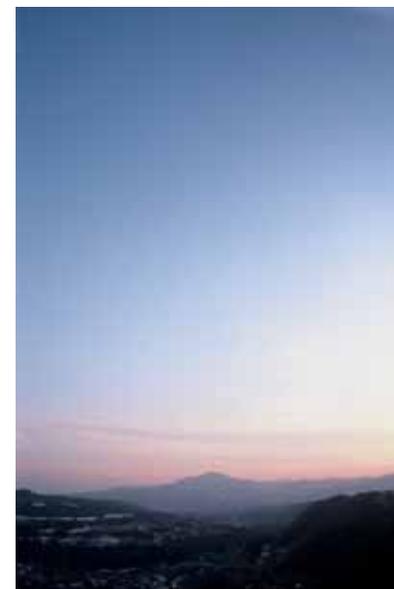
群馬の森

群馬の大地には、人類の共有財産といってもいい様々な森が広がっています。尾瀬の湿原を包む森。玉原のブナの森。貴重な森が各地に点在し、他方には、江戸時代に築かれた上州林業の伝統を受け継ぐ林業の森が展開します。そして、集落や都市の近くに生まれた里山…。

この多様な森が、雄大な利根川の流れを守り続けています。首都圏の機能は、利根川を守り続ける群馬の森によって支えられてもいます。ですから、利根川は東京・首都圏の維持に欠かすことができない水源です。

この多様な森と雄大な利根川がつくりだした山村・農村・都市。それが群馬県です。その大地の上では、林業がおこなわれ、多様多彩な農業、工業、様々なサービス業が営まれています。農業や工業も背後の森をみながら営まれ、森や川は目に見える距離で人々の暮らしを支え続けています。都市が県内全域に点在し、しかも劣悪な都市環境を露呈するほどの大都市もありません。

群馬県、それは森と川、田畑、都市が相互性を持ちながら連続的に展開し、山村・農村・都市が有機的な一体性を保つ、自然と人間の里です。都市に暮らしながら農山村の環境を享受することも、農山村に暮らしながら都市的条件を利用することもできます。都市の人間であるとともに自然の中で暮らし、農山村の人々が都市の環境を生活の中に取り込むこともできます。二次産業や三次産業に従事している人が、自宅や実家に戻れば農民や山村の民に変わることも珍しくなく、そのことが群馬県の二次産業や三次産業を、一面では支えているのです。



水源圏から

「歩く文化」を伝えたい。

「歩く...」

世界には人々を魅了するトレイル（遊歩道）があります。

有名なところでは、ニュージーランドの“ミルフォードサウンドトラック”、イギリスの“フットパス”、アメリカの“アパラチアントレイル”などがあります。

「世界で一番美しい散歩道」と呼ばれているミルフォードサウンドトラック。フィヨルド地形、森林、草原、峠、そしていくつもの滝が世界中の人々を魅了します。

フットパスは、もともとイギリスで発達した「歩くことを楽しむための道」のことで、農村部を中心に約20万kmの延長になります。川や丘は当然ですが、農場や自宅の敷地内を通る道もあり、英国国民にフットパスを大切にする文化が醸成されています。

アパラチアントレイルは、アメリカ東部のアラバマ州から北はカナダまで延々とつながるアパラチア山脈の中にあるトレイル。メイン州からジョージア州まで続くその距離は3,500kmにおよびます。世界のバックパッカーが挑む雄大なトレイルですが、たくさんのボランティアのエネルギーで支えられていることは、あまり知られていません。

共通することは、地域を歩いて、先人たちの歴史を感じたり、圧倒される自然の美しさ感動したり、文明の利器から遠ざかり、大自然に身をおくと、人と人との間で自然なコミュニケーションが生まれるということです。

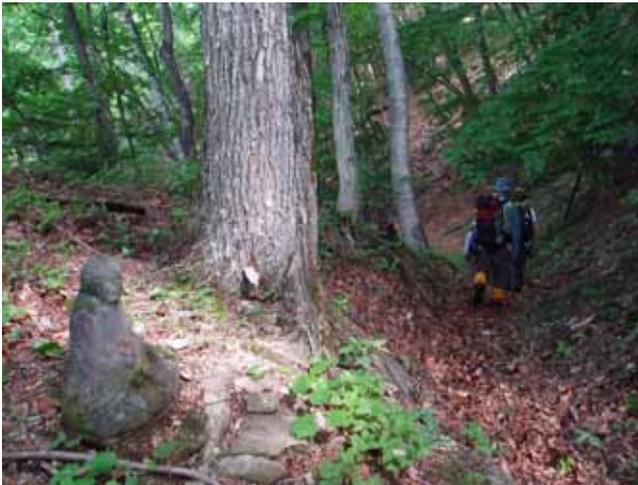
でも、そういう素材や環境はここにもあります。

文化もあれば、人々を魅了する日本固有の自然もあります。

そして何よりも、森林を使いながら守ってきた歴史があります。それは世界に誇れる文化なのです。

古い文化を見つめると、驚愕の知恵を知ることにもなれば、時には目をおおいたくなる、耳をふさぎたくなることもあぶり出されるかもしれません。でも、それがあって新しい文化の創造になるのではないのでしょうか。

森と市民を「つなぐ」のが、お金であったり、職場であったり、食べ物であったり、水であったり、酸素であったり、憩いの場であったりするの、これまでも多々議論されてきたと思いますが、『信仰や文化』といったメンタルな面については、まだまだこれからなのではないのでしょうか。...急がなくても良いことかもしれませんが、大切なことだと思います。



流れ出した「水」には名前がついていません...が

数日前、シカやキツネたちが
ぴょんとまたいだ せせらぎの水が
今、そこに届いているのかもしれない。

「群馬の森で起きていること」

木を植えて自然を呼びもどす方法もあれば、木を切って「森林（やま）」を守る方法もあるんです...！

ここには人がつくってきた森林がたくさんあります。でもこの森は、人が手入れをしないとダメになってしまうんです。人が離れてしまった森は、やがては、草も生えない暗い森になってしまったり、弱った林は雪などで共倒れになったりします。

そうなった森は、雨が降るたびに少しずつ土砂が流されて、ときには森ごと山ごと流されてしまうこともあります。

でも、困るのはわたしたちだけではなくて、下流の人たちも同じはずです。

今、この山里のそこかしこで、山の恵みを守り続けることができるよう、それはそれは、たくさんのグループや団体、そして人々が、あちこちでがんばっています。

また、まちからやって来る人たちに、この山里や大自然のすばらしさをわかってもらえるよう伝える努力もしています。

でも、押し寄せる人々の波と森林が変わってゆくスピードを見ていると、もう一刻の余裕もないという気持ちになってきます。

そこで、今大切なことは...

森林を守る活動者（グループ、団体、研究機関、個人、林業家等）をサポートすること。

森林の魅力を伝える案内人たちをサポートすること。

森林の恵み（山菜、きのこ、木材ほか）を提供してくれる人をサポートすること。

森林を守りながら遊びを提供してくれる人をサポートすること。

これらを上流から下流の人たちへとうまくつなぎ合わせること。

...ではないでしょうか。



森林には持ち主がいます。境界があります。
でも、そこで生まれる水や生き物にとって境界はありません。

「森林」の魅力さがし

みなさんは、森林の魅力と聞いたとき、群馬の森林と聞いたとき、どんなコトやモノをイメージ（想像）しますか...？

きらきら木漏れ日、はじける光、澄んだ空気に揺れる花、リスたちがたわむれる木立や、流れゆく雲もあれば、燃えるように紅葉する森林もイメージするでしょうか...。

森林と書いて“やま”と読みたい。
というのも、わたしたちは自然にある木々を見ると「森林」と呼びたくなりますが、本当に森林のことをよく知っていて、地域固有の森の使い方を知っている古老たちは“やま”と呼んでいます。

そしてその人々は“やま”の持つ許容量を知っていて、地域固有のルールも創り出してきました。
これもやはり魅力なのです。

緩急に富んだ地形 星の里 氷（氷結） 風（風涼） 高原と渓谷 利根川の上流域 水源圏（水瓶） 亜高山帯 湿原 湖沼 高原 温泉 大小の河川 大小の滝 河岸段丘 湧水 鉱物資源 人工林 里山天然林 茅場 牧草地 田畑 棚田 上昇気流 雷のメッカ 雪 雨 虹 動植物 鳥 魚 虫 ...

そしてここに住む人々...

これもみんな魅力なんです。



■ フィールドミュージアム・エコミュージアムの観点から、歩くことを楽しくさせる素材を考える



生産資材を使ったサイン
相市ニッカ(オーストリア)



風景を解説する
(ニュージーランド)



風の村であること
のセムルド(オーストリア)



村や農・産物の
いたるところで見
かける(オーストリア)



木彫(ニュージーランド)
(イ)



遊歩道にキャブ(ニュージーランド)



ブドウ搾り機(ドイツ)



古民具としての馬
車を展示(ニュージーラ
ンド)



コルク搾り機
(ニュージーランド)



先人の足跡をたたえた
ブロンズとプレート(オーストリア・ニュ
ージーランド)



街の辻々にある憩いの場・古くは放牧家畜の水場でもあった。(ドイツ・オーストリア)



活気のあるのみ市(オーストリア・ドイツ)



「観光」から

「環境」へバージョンアップしませんか。

「歩く文化」づくりは、

「森林」を守ることにもつながる。

「道」は様々な活動を実施して行くための先行投資として必要になります。既存歩道の再整備、各地域の歴史探索、自然体験や森林整備などの様々な活動を組み合わせ、社会教育的なトレイルを実現していきながら地域の活性化も期待できます。

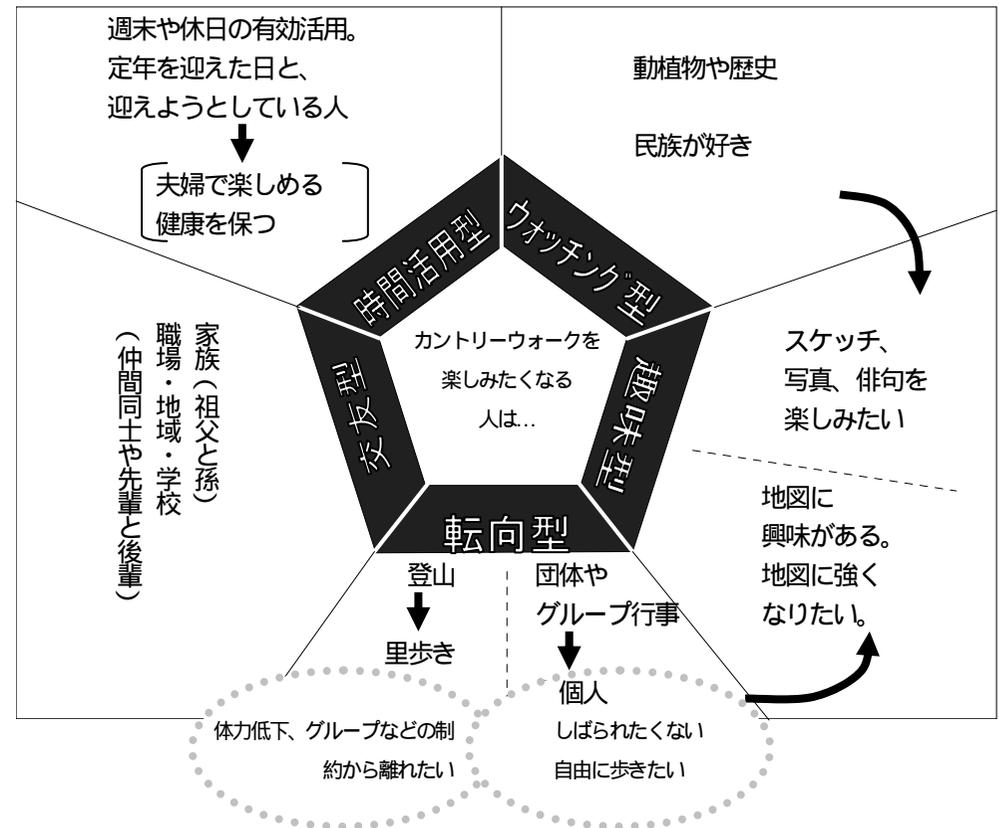
温泉から温泉など観光地を線でつなげることもすぐ出来そうです。

それには、現に地域々々で様々な活動に取り組んでいる人たちをつなぐことが大切です。

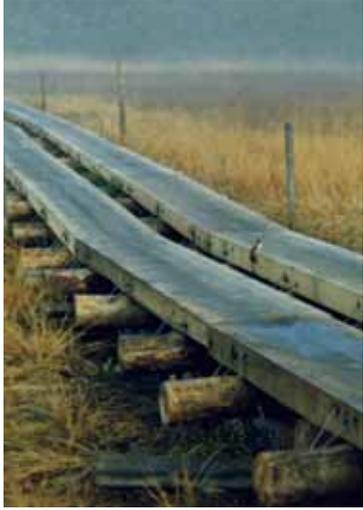
共通のテーマに取り組むことで、各団体間で連帯感が生まれ、質の高い自然体験などが実現されることも期待できます。

地域経済の高度化（新しい価値観）や魅力ある地域づくりを通じた「若年就労者」の拡大などへの波及効果も期待したい。

これらは循環型社会の観点からも、ビジネスの可能性は多様にありそうです。



原図：「カントリーウォーク」NHK 出版 P.13 参照



日本初、100km の森のトレッキングコースを みんなで創り、歩き、森を守りませんか。

こんな「夢」を描いている人たちがいます。

～ 地域の森を地域のみなどと考える～

「武尊山 100km トレイル」空想実現化に向けての挑戦プロジェクトです。古くは生活道、あるいは農林業の作業道、マタギ達が使っていた山道...、それらを繋ぐと武尊をぐるりと周遊する 100km の道が出来ます。新しい観光資源として、あるいは日本型環境教育の場所として「森と対話していた時代」から学ぶ「里山・森林トレッキング」の創造を試みます。プロジェクトには「宿泊許容」「各種人材」「文化研究」「環境への配慮」そのほか様々な波及効果や難題があぶり出されます。これらを一緒に考え、夢を抱き、そして「実現化していこう」とする瞬間に立ち会っていただける方を募ります。もう、点の活動は始まっています。あとはつなげて「絵を描く」だけです...

- * 武尊山を周遊するトラックを創る *トラック=トレッキングコース
- * 各地区で活動している環境に関わる団体等に協力してもらい、トラックの整備を行う。
- * 地域文化の掘り起こしに主眼を置き、里山を歩きながら、古くからの「やま」との関わりを見せる空間に整備していく。
- * 宿泊先には民宿旅館や山小屋、作業小屋等を想定。
- * 緊急時は周遊する車道と地域連絡網を整備することで、早い対応が可能。

トラック整備について

- 基本的には各地区の団体が維持管理するが、外部の人間を入れて管理作業をイベント化することも可能。
- 古道（生活道）など潜在的なルートがあればよい資源となる。
- 土地の大きな改変は行わない。新道をつける場合は、道しるべをつけ藪払いをする程度のルート開拓にとどめる。
- ほか

想定される問題点

- 所有者との関係
- 貴重な動植物への影響
- 維持管理ができない区間をどうするか
- ほか

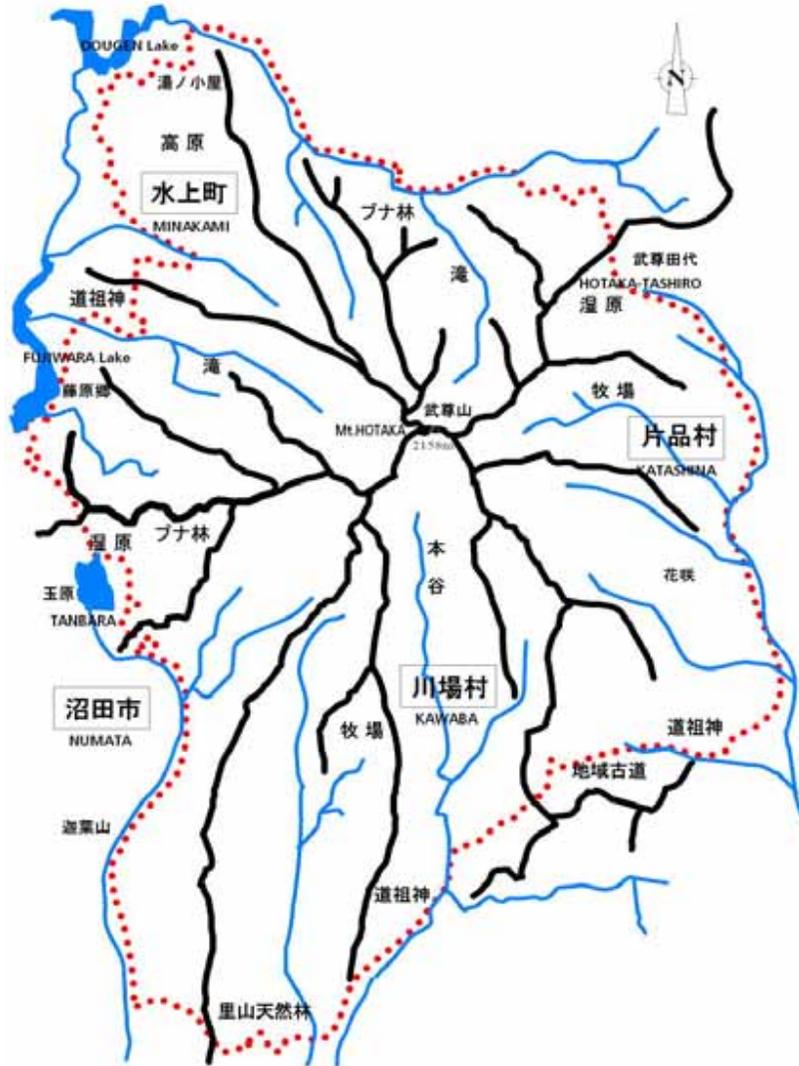
一部でホース（乗馬）トレッキングも可能か

小さな峠越えを、「提灯」を持って歩くプログラムも魅力的かもしれない。

ほか

(仮称)「武尊山百散歩」

～ カルチャー&ネイチャートレイル概念図 ～



森林の恵み 100%を召しあがれ。

2005年8月31日 初版第1刷発行

企画・製作：群馬ビジョンを推進する県民の会「森林地図」部会
編集協力：東京農業大学森林政策学研究室
沼田エフエム株式会社 出版事業部
NPO 利根川上下流連携支援センター
写真協力：NPO あるきんぐクラブ・ネイチャーセンター（竹内 成光）
栗田 和弥（東京農業大学）
関岡 東生（東京農業大学）
松井 孝夫（群馬県立尾瀬高等学校）
NPO 利根川上下流連携支援センター
発行：群馬ビジョンを推進する県民の会
代表 熊倉 浩靖
〒370-0831 群馬県高崎市新町116-1 第一生命ビル8階
NPO ぐんま 内「群馬ビジョンを推進する県民の会」事務局
TEL 027-326-6677 / FAX 027-326-6688
E-mail : npo-kasumi@xp.wind.jp
印刷：新生孔版



群馬ビジョンを推進する県民の会

「森林地図」部会